

その昔は通子（？） 彼れに心を配るに二十日を過ぎたる
 身は清くおさけ却つて確に有知の故とみるかに安
 心欣喜を回能存し 然るに 月におさるに 入年して 善友
 無し、心得る何事 是れを 凡人や 月一の善友
 的関係と能くするに 只此の 人生を 善友の 有
 るに 義に 採らんことを 要しつゝ、 彼の 凡人生活
 に 同感 せず 故を して この 極に 在る 邊境
 を 懐く しめ たる 故に 好ま ざる 後 寂し みを 感ず
 べし 是れ 亦 一 善友 也 此の 際 善友 こそ 自ら 守る べき 也 吐露
 して 善友 國の 志 上 なる 善友 歟 の 故 亦 心 に 訴へ 申
 上 申 せ ざる 者

十二月二十日 伊藤銀月

野川清治殿





印

東京市小石川区

羽町三十九

野間清治

大正五年



票號番
貳九八

65 70 75 80 85

西垣文庫

文庫 10

8827

8 (15)

奇下苗子是立即
興村直大國寺
伊赫銀用
1000
十一月二十二日

